

## 編集後記

卒後医師研修制度の平成16年度よりの新たな施行に伴い、各大学医学部においては、それに向けての準備が始まっていることと思う。私の大学においても様々の卒後初期研修システムが、いわゆる内科、外科系講座の間で検討されている。私自身は外科教室の責任者という立場からこの問題にかかわっているが、大学医学部を卒業した直後の初期臨床研修システムとして現在予定されている多くの領域を短期間に回るスーパーローテート方式が外科に将来進む若い医師にとって本当に役立つ物が、また仮にこのシステムが有用な物とした場合、どのような運用を行っていく事で真に社会に貢献しえる臨床医として育てうるか疑問を抱かざるを得ない。一言で社会に貢献しえる臨床医といっても、その貢献の仕方は多様なものがあるはずであり、マクドナルド方式の一律でワンパターンの医師育成は創造力に富む、現状に常に問題意識を持ち新たな医学、医療を模索する医師を育て損なうのではないかと危惧してしまう訳である。いずれにせよ近々この新たな研修医制度が発足されることになるであろうが、若い医師の教育において、研修システムの改革はもちろん大切である事は十分理解できるが、最も大切な事は教える者の日頃の医師としての姿勢、また教わる側の医師としての責任を果たすための懸命な学ぶ姿勢であろう。若い教室員とともにこれからもこの基本を忘れずに学び舎のプライドを保っていきたいものと考えている。

(宮崎 勝)